

社会性を育む部活動を目指して (活動報告)

サッカー部顧問 三井 陽介 (保体)

平成30年度高等学校学習指導要領(保健体育)にて、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められていると記載してある。本研究は部活動を通じて、これからの社会で必要とされる社会性を分析し、どのような活動が生徒に効果的であったかを分析することを目的としている。

<キーワード> 部活動 社会性

1. はじめに

部活動には、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流・好ましい人間関係の構築、学習意欲の向上・自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場として、教育的意義が大きいとされている。

生徒の多様な学びを導き出す部活動としてさまざまな取り組みを実践し、より社会性を育む方法を考察していきたいと考えている。

2. 本校のサッカー部について

(1) 部員数

3年生 13名、2年生 5名、マネージャー 3名、1年生 10名

(2) 試合成績

- ・令和元年度愛知県高等学校新人体育大会サッカー競技 県大会出場
- ・第74回愛知県高等学校総合体育大会サッカー競技 中止
- ・全国高校サッカー選手権大会愛知県大会地区予選 2回戦敗退
- ・高円宮杯 JFAU-18 サッカーリーグ 2020 西三河1部 10位

(3) チームの目標

- ・競技力の向上
- ・グローバルな人材育成
- ・地域貢献

(4) サッカーの目標

- ・令和2年度愛知県高等学校新人体育大会サッカー競技 県大会出場
- ・第74回愛知県高等学校総合体育大会サッカー競技 県大会出場
- ・全国高校サッカー選手権大会愛知県大会地区予選 県大会出場
- ・高円宮杯 JFAU-18 サッカーリーグ 2020 西三河1部残留

3. 主な活動内容

(1) 競技力向上について

基本的には平日はトレーニング、週末の練習試合、もしくは公式試合という日程で活動をしている。週末の試合後に主にキャプテンを中心にミーティングを行い、試合の課題・分析シートを記入し、提出している。そして、試合で出た課題を平日のトレーニングで改善し、また、週末の試合で確認・課題の発見というサイクルで活動している (M-T-M)

(2) グローバルな人材育成について

今年度より7月中旬に実施されているスタンフォードサマーキャンプに参加(新型コロナのため中止)、それに向けて、英語力の向上、また、スタンフォード大学で活躍されている、「スタンフォード式 疲れない体」著者の山田知生先生や「スタンフォード式 最高の睡眠」著者の西野精治先生の講演やアメリカで活躍されている日本人の方々の講演などを予定していた。そのための、事前準備などを考えている。

(3) 地域貢献

- ・小堤西池のカキツバタ群落保全活動
- ・あしなが募金への参加
- ・AUE. A スポーツ教室の小学低学年・未就学児へのスポーツ指導などを実践している。

4. 研究方法

- (1) 社会で求められている能力の考察
- (2) 生徒へ意識調査
- (3) 生徒への現段階(10月)での達成状況アンケート
- (4) 部活動を通じてさまざまな経験をする(現時点ではここまで)
- (5) 生徒への達成状況アンケート(3月に実施予定)
- (6) アンケート結果の集約・分析
- (7) 今後への課題の集約

5. 研究成果(現時点での)

- (1) 社会で求められている能力を考察した。
 - (ア) 問題解決能力(問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し問題を解決する)
 - (イ) 継続的な学習能力(進んで新しい知識・能力を身につけようとする)
 - (ウ) 主体性(自らの考えで責任を持って、自律的にものごとに取り組む)
 - (エ) チームワーク力(チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす)
 - (オ) 自己管理能力(目標の実現に向けて計画し、自らを律して行動できる)
 - (カ) 課題設定力(現状を分析し、問題点を明らかにして課題として設定する)
 - (キ) 論理的思考力(筋道を立てて論理的にものごとを考える)
 - (ク) コミュニケーション能力
 - (ケ) 発信力(自分の意見を分かりやすく伝える力)

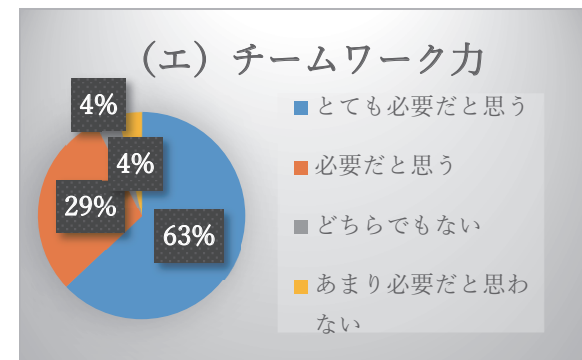
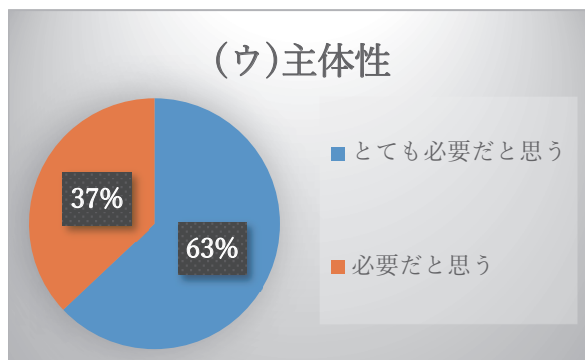
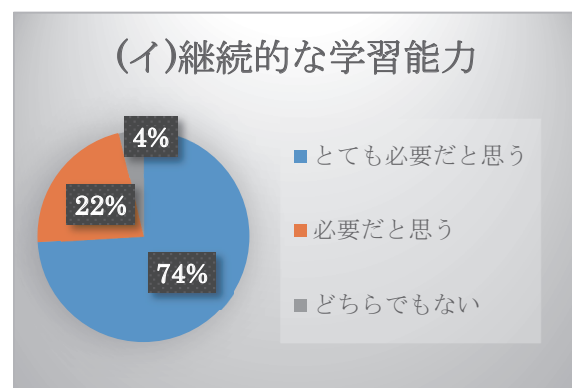
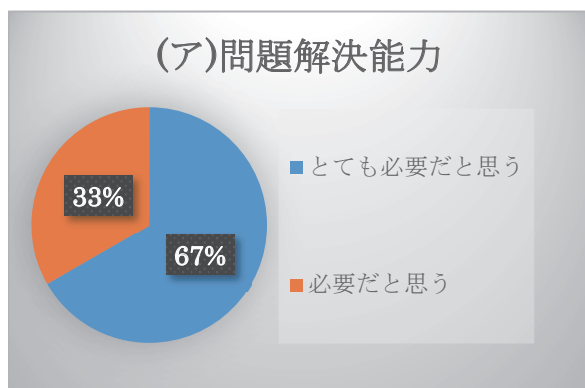
- (コ) 傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）
- (サ) 柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）
- (シ) 状況把握能力（自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力）
- (ス) 規律性（社会のルールや人との約束を守る力）
- (セ) ストレスコントロール力（ストレスの発生源に対応する力）
- (ソ) 働きかけ力（他人に働きかけ、巻き込む力）
- (タ) 想像力（新しい価値を生み出す力）
- (チ) グローバルな感覚（単に言語能力や海外の知識にとどまらず、人類や環境などの地球社会規模での調和・共存という支援に根差した、あたたかい配慮といったことも含まれる）
以上のように考えた。

(2) 生徒への意識調査を実施した。

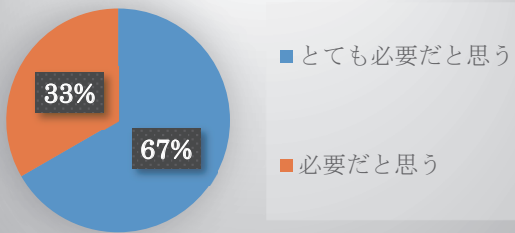
上記した（ア）～（タ）についての必要性を生徒に5段階で評価させた。

- ・とても必要だと思う
- ・必要だと思う
- ・どちらでもない
- ・あまり必要だと思わない
- ・必要だと思わない

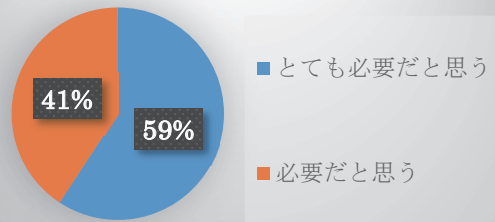
以下はアンケート結果



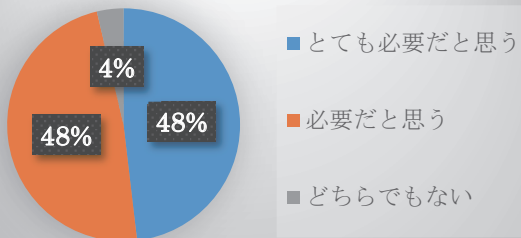
(オ)自己管理能力



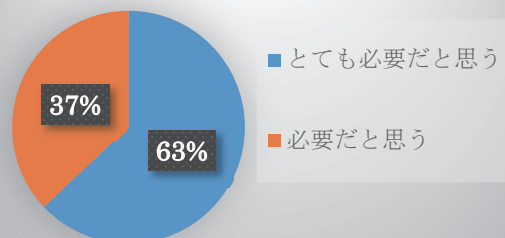
(カ)課題設定力



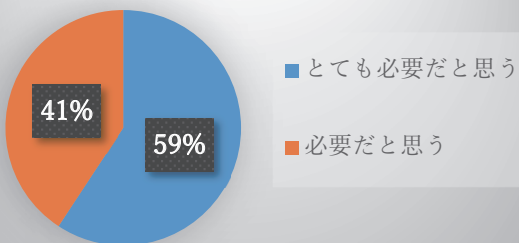
(キ)論理的思考力



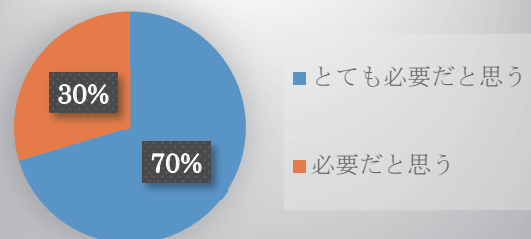
(ク)コミュニケーション能力



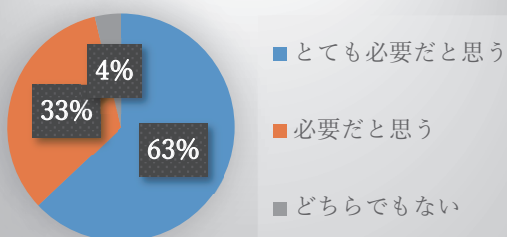
(ケ)発信力



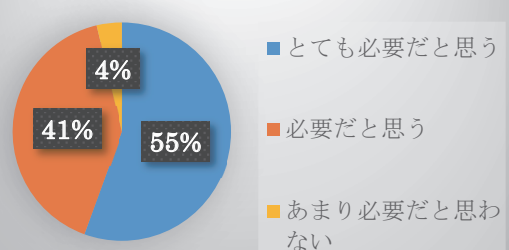
(コ)傾聴力

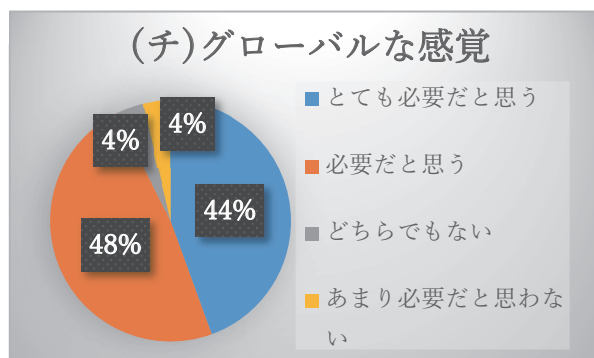
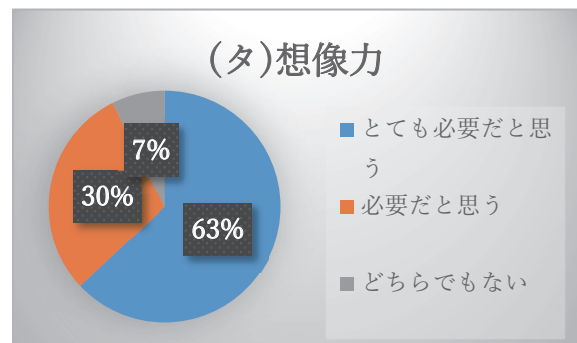
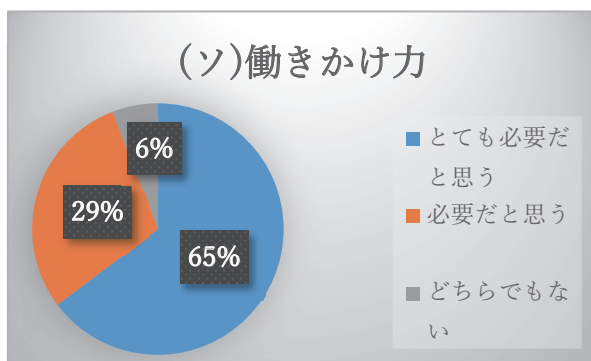
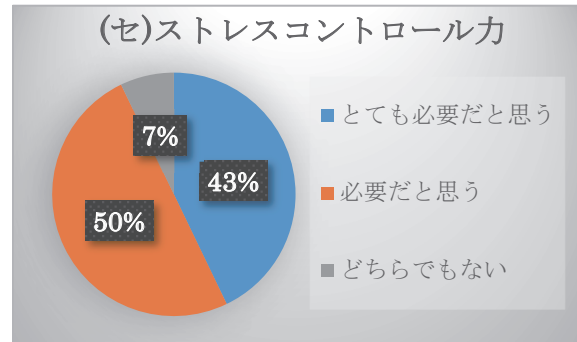
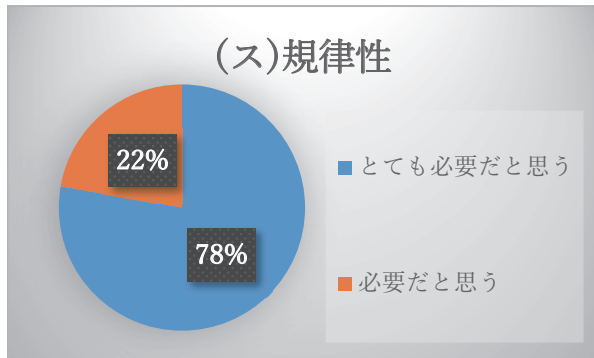


(サ)柔軟性



(シ)状況把握力





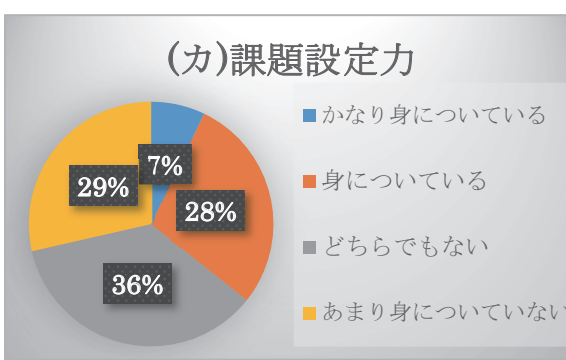
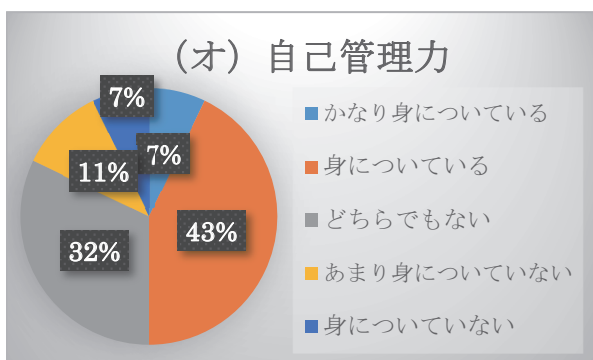
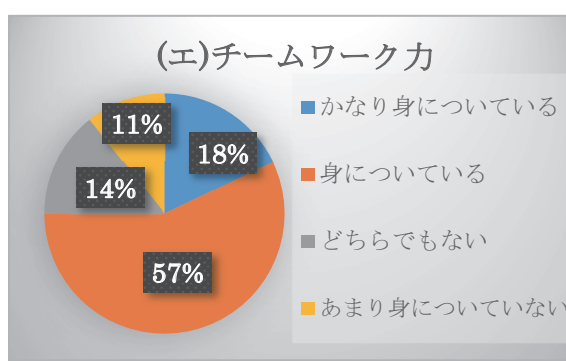
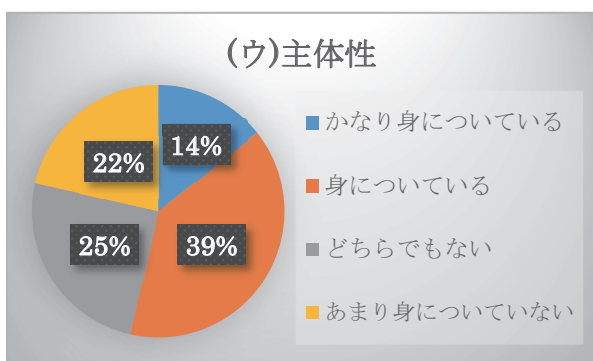
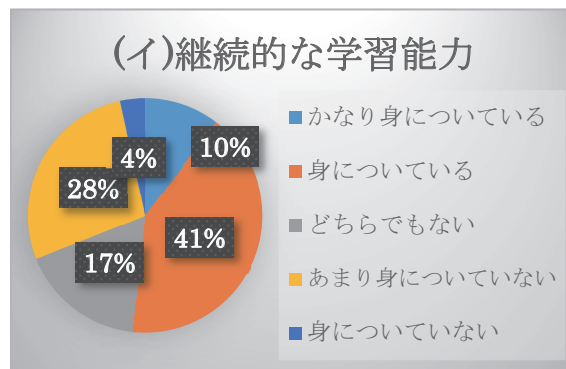
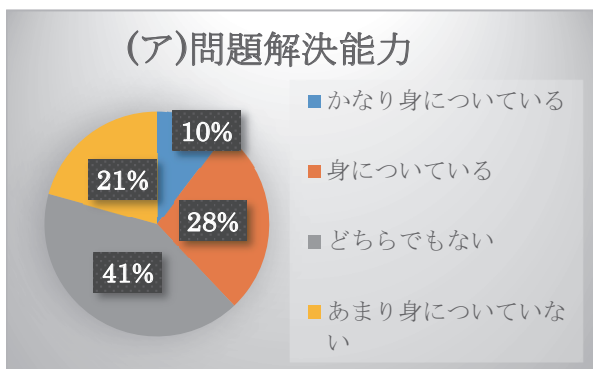
考察

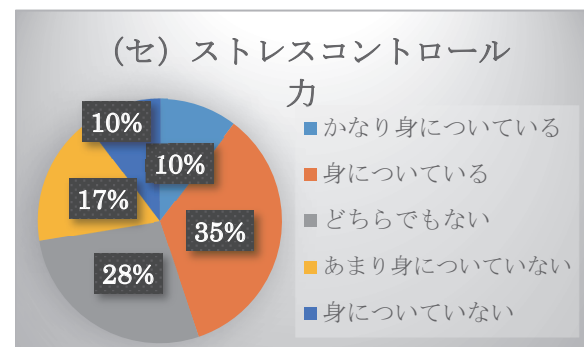
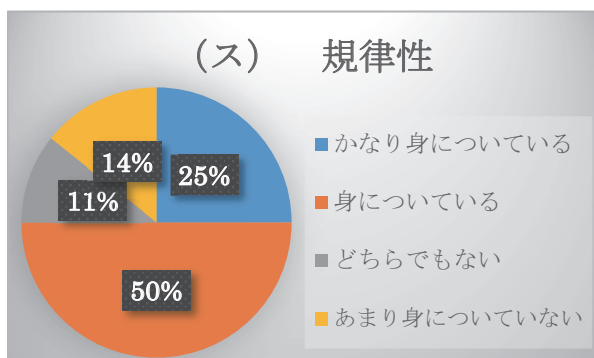
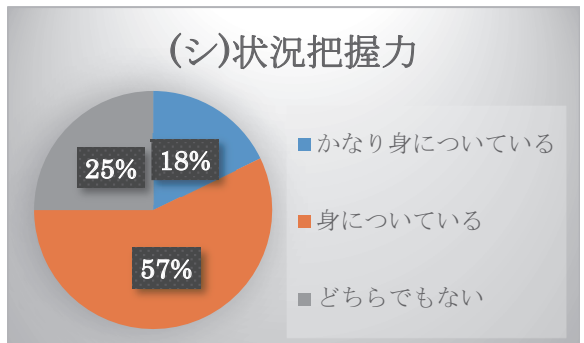
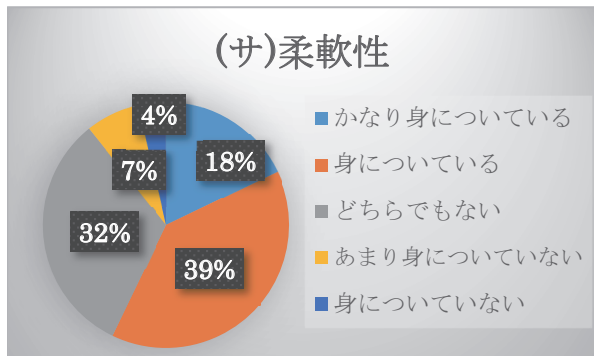
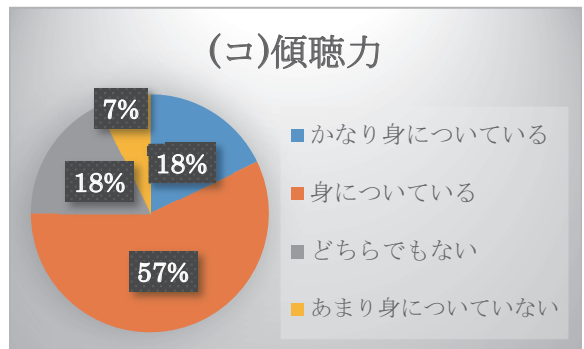
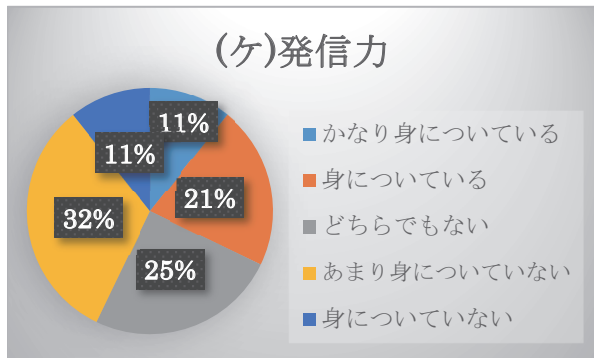
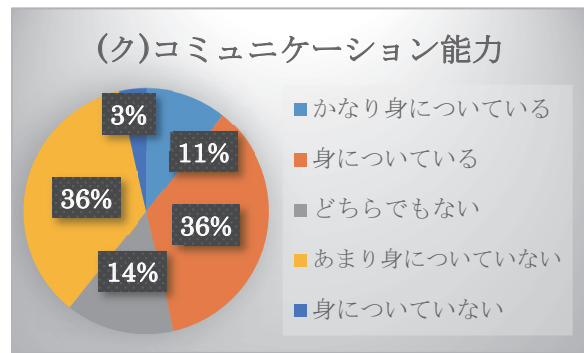
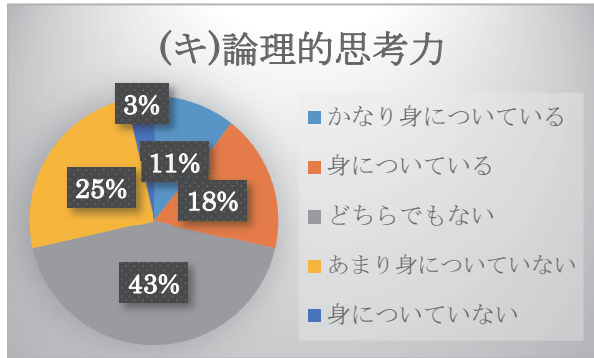
本校の生徒において、特に必要だと感じている能力は(イ)継続的な学習能力（進んで新しい知識・能力を身につけようとする）・(コ)傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）・(ス)規律性（社会のルールや人との約束を守る）などが挙げられた。これらについては、日ごろの学校生活の中での多くの教員・保護者から指導されている内容だと考える。また、必要だと感じているが数値の低い能力は(キ)論理的思考力（筋道を立てて論理的にものごとを考える）・(セ)ストレスコントロール力（ストレスの発生源に対応する力）・(チ)グローバルな感覚（単に言語能力や海外の知識にとどまらず、人類や環境などの地球社会規模での調和・共存という支援に根差した、あたたかい配慮といったことも含まれる）が挙げられた。これらの内容は、高校生活の中で認識されることは少ないため、数値が低くなったと考えられる。これらの内容にも生徒の視野を広げさせる方法を模索する必要があると感じた。

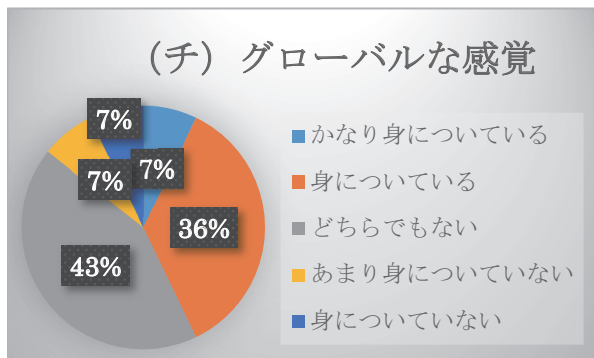
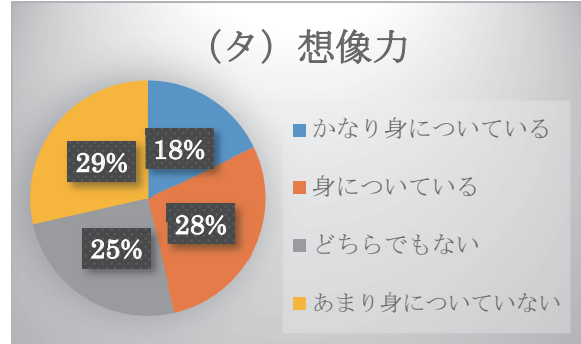
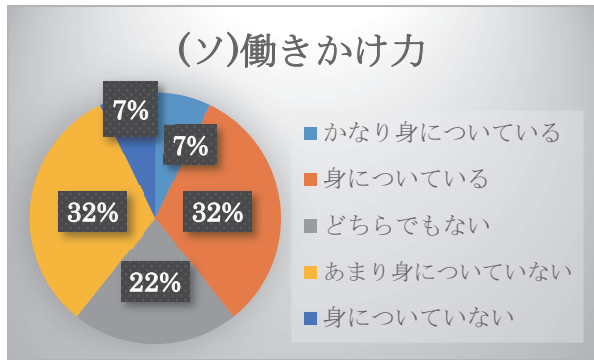
(3) 生徒への現段階（10月）での達成状況アンケート

上記した（ア）～（カ）について、自己分析を生徒に5段階で評価させた。

- ・かなり身についている
- ・身についている
- ・どちらでもない
- ・あまり身についていない
- ・身についていない







考察

本校の生徒の自己分析によると、(エ)チームワーク力（チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす）・(コ)傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）・(シ)状況把握力（自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力）が高いと認識している。一方、(ク)コミュニケーション能力・(ケ)発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）・(ソ)働きかけ力（他人に働きかけ、巻き込む力）が低いと認識している。これらの能力を得意な部分をさらに高め、苦手な部分を補うためにはどのような活動に取り組むと良いかを考えていきたい。

(4) 今年度の取り組み



公式戦



小堤西池のカキツバタ保全活動の取り組み



AUE. A スポーツ教室の取り組み



あしなが募金の取り組み

6. まとめ

部活動の意義を再構築し、今後社会で求められる社会性を育むためにより効果的な活動にしていくために、生徒が感じている社会に必要とされている能力を調査した。また、本校サッカー部の生徒が考えている、社会性の身についていることや身につけていないことを分析した。その内容を踏まえて、今年度、さまざまな活動を実践してきた。また、3月にアンケートを実施し、来年度に向けて、より本校生徒の良いところをさらに成長させ、苦手としている分野を成長させるためには、どのような取り組みやさらには、どのような考え方を持たせれば成長を促しやすくするのかなど、実践を通じて、成長を促す方法を模索していきたいと考えている。

参考文献・資料

【保健体育編 体育編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説

https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf

データで見る 学生の実態と社会で求められる力のギャップ

https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/021.pdf